

生命に向き合う日々のまなざしで ダイバーシティ環境づくりを 推進しましょう。



はじめに

日本獣医生命科学大学では、ダイバーシティ推進事業を前進させてまいります。

この活動は、私どもが2017年度に設置した「男女共同参画推進委員会」を引き継ぐものと位置づけています。男女がともに気持ちよく仕事ができるように、学校法人が設置する女性医師・研究者を支援する組織と連携しながら、教職員の意識調査アンケートの実施や啓発を目的とした講習会を開催し、男女共同参画への本格的な取組みを支援してきました。

また、2018年1月に策定した中長期計画では、ビジョンの一つに「個が評価される喜びに満ちた大学」と定め、そのアクションプランとして「安心して働ける職場環境の整備」「男女共同参画の推進」を掲げました。具体的には、女性研究者の出産・育児・介護などに対する支援体制の充実やワークライフバランスが保たれる環境の構築、それらを実現するための研究や業務のバックアップ体制の確立、および上位職への積極登用などに努めています。

こうしたなか、2019年度には「男女共同参画推進委員会」を「ダイバーシティ推進委員会」と改め、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」に採択されたことを機に、ダイバーシティ研究環境構築のための取組みをさらに加速しようという機運が高まっています。

女性たちが もっと輝けるように

本学でも、女性がかっこよく輝いてほしいと思います。現在、全教員数の約2割に過ぎない女性教員の割合を検討し、文部科学省が推奨する3割に近づけていけるよう、全学的な教員の人事計画の見直しも行います。

かつての女性は、結婚・出産となると、いったんは仕事を退き、子どもの成長に合わせて復職の機会を待つことが多かったのですが、いまは違います。夫婦ともども育児にも力を合わせ、立ちほだかる障壁をクリアし、女性も望むようにキャリアアップを図っていける時代になりつつあります。また、そうならなければいけないと考えます。

日本人はもともと農耕民族、皆が手を携えて協調して事に当たってきました。狩猟民族をルーツとする西欧社会の人たちに比べると、日本人はキャリアアップにしてもスローですが、人と人の連携を大切にするのは日本人ならではの背景を保ちながらも欧米の人たちのファクターも取り入れながら展開していくことが、このグローバル社会に求められているように思います。

ダイバーシティ推進室を 開設

私たちは日々、多様な生命と向き合い、そのことで優しさや協調性を培ってきました。ダイバーシティ推進事業の目標の一つにOne Healthが掲げられています。



日本獣医生命科学大学

〔学長〕

清水一政(しみず・かずまさ)

協力体制の取り方も人対人のみで考えるのではなく、身近な動物に目を向けてみると、改めて気づかされる方法があるはずです。仲間と争わず、協力しあえる日常があれば、楽しくほらかな日々を送ることができます。それが一番の幸せだと思っています。

現在、ダイバーシティ推進委員は10名。活動拠点が必要ではないかと考え、学長室に隣接する部屋を「ダイバーシティ推進室」としました。ここが活動についての発信基地となります。文科省の中間評価が採択から3年目の2021年にあり、その後2024年まで推進委員を中心に、しっかりと歩みを進めて行きましょう。

〔ダイバーシティ推進室 開設〕

関連図書の貸出し、歓談、小ミーティング等にご利用いただけます。

お問合せ：庶務課ダイバーシティ推進室(内線番号:5101)

場所：E棟1階

